

# にら（露地普通）

## 栽培暦

月	2	3	4	5	6	7	8	9	10
作型									
露地普通	(1年目) _____ (2年目以降) _____ <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">             播種  </div> <div style="text-align: center;">             定植  </div> <div style="text-align: center;">             収穫  </div> </div>								

## 栽培の特徴とポイント

植え付け1年目は株養成のため収穫せず、2年目以降収穫する。いったん定植したら据え置き栽培となるため地力の高いほ場を選ぶとともに、計画的に株養成ほ場を設置することで、年次変動の少ない出荷が可能となる。

## 品 種

パワフルグリ-ンベルト：分けつは少なく、葉色が濃い。抽台が早く、6月半ばから始まるが切り上がりも（武蔵野、固定種）早い。秋は伸長性が劣るため、春から初夏にかけての収穫に適する品種である。

## 育苗管理

育苗にはセル成型苗と地床育苗がある。また、近年はポット育苗と地床育苗を組み合わせた技術がメーカー開発され、育苗中におけるかん水作業の省力化と肥料切れ防止、および植え付け作業の省力化につなげることが可能となっている。

以下、露地の地床育苗について述べる。

### 1 床土準備

- 1) 日当たりが良く、肥沃で排水良好なほ場を選定する。
- 2) 苗床面積は定植ほ場10aに対し、1aを準備する。
- 3) 施肥後、耕起・整地し、床幅1mのまき床を作る。
- 4) 苗床作りは、播種の7～10日前に終わらせる。

### 2 育苗床施肥例 (kg/a)

肥料名	基肥	追肥	成分量			摘 要
			N	P	K	
完熟堆肥	200					床土のPHは、6.5を目標とする 追肥は生育に応じて実施する
苦土石灰	20					
そさい3号	15		2.3	2.3	2.3	
硫 安		3	0.6			

### 3 播種

- 1) 播種量は、定植ほ場 10a 当り 1 リットルを標準とする。
- 2) ニラの種子は吸水が悪いので、播種前に、一晩水に浸し、陰干しておく。
- 3) まき方はすじまきとし、苗床に 10cm 間隔の細い溝を作り、約 1.5cm の間隔でまく。覆土は種子が見えなくなる程度とし、後は鍬で軽く押さえ、乾燥を防ぐ。覆土後は十分にかん水を行う。
- 4) 発芽まで敷きわらをし、その上から有孔の透明ポリシートをかけて地温を高め、乾燥を防ぐ。(ただし、全体の 2 ~ 3 割発芽時点で除去しないと、葉折れ、葉やけがおこるので注意する。)

### 4 育苗管理

- 1) 播種後、10 ~ 14 日くらいで発芽してくる。発芽後 1.5 ~ 2 葉の若苗時に、混んでいる所があれば間引き。雑草が目立つ場合は間引きと同時に手取り除草する。追肥は、窒素成分で 0.6kg/a を発芽後 30 ~ 40 日と発芽後 60 ~ 70 日の 2 回に分けて条間に行う。但し、必要に応じて量、回数を増減させる。

### 5 定植時の苗の目標

- 1) 播種後 90 ~ 110 日で定植できる苗齢に達する。  
(良い苗の条件は苗丈 30 ~ 35cm、葉数 6 ~ 7 葉、分けつ数 2 ~ 3 本、1 株重 15g 内外である。)

## 本ば管理

### 1 耕起・畝立て

- 1) 定植ほ場は日当りの良い、肥沃で排水良好なほ場を選定する。
- 2) 施肥例を参考に定植 15 日くらい前に土壌改良資材や有機質肥料等を散布し、深さ 25cm を目安に耕す。
- 3) 耕起後、幅 150cm (うち溝幅 50cm) を目安に畝立てを行う。

### 2 施肥例 (kg/10a)

肥料名	基肥	追肥		成分量			摘要
		春	秋	N	P	K	
1 年目							土壌 pH 目標値 PH6.5
完熟堆肥	3000						
苦土石灰	200						
そさい 3 号	150	20	20	28.5	28.5	28.5	
2 年目							
完熟堆肥	1000						
苦土石灰	80						
そさい 3 号	150	60	60	41.0	41.0	41.0	

### 3 定植

- 1) 定植時期 6 月下旬 ~ 7 月上旬
- 2) 定植方法
  - (1) 条間 50 ~ 60cm × 株間 20 ~ 25cm × 2 条植え = 5,300 ~ 6,700 株/10a とする。
  - (2) 1 株の植え付け本数は、2 ~ 3 つに分けつした苗を 4 ~ 5 本ずつ植える。
  - (3) 植え付け深さは 12cm 程度の深植えとする。  
(苗の首元をそろえて良く根を伸ばし、鱗茎の上 2 ~ 3 cm のところまで植え込む。)

### 3) 追肥・土寄せ

活着後（植え付け 20 日後ぐらい）に株元に春追肥し、1 回目の土寄せを行う。続いて 9 月下旬に株元に秋追肥し、2 回目の土寄せを行う。追肥量は、施肥例を目安として、生育に応じて 3 回程度に分けて施用しても良い。

### 4) マルチ張り

定植翌年の 4 月上旬の追肥後、アブラムシの飛来防止も兼ねて、シルバ - ポリマルチを畝に被覆する。萌芽してマルチが持ち上がった所を穴開け器を用いて開孔する。

畝立て直後のマルチ張りは、

ア 植え穴を深く掘る際に作業が行いにくいこと（マルチ穴が大きく広がりやすい）

イ 秋と翌春の株元追肥が行いにくいこと

から、定植翌年の春追肥以降が作業上都合が良い。

## 収 穫

### 1 収穫

#### 1) 春刈り（4 月上旬から 6 月下旬）

融雪後、葉の生育や品質を整えるために、捨て刈りを行う。

##### (1) 第 1 回刈り取り

ニラの大きさが 24cm 前後になり、本葉 3 ~ 4 枚の時、軟白部を 1.5cm くらいつけて刈り取る。

##### (2) 第 2 回目以降の刈り取り

第 1 回刈り取り後、15 ~ 17 日間隔に 4 ~ 5 回収穫して打ち切り、株を休める。

朝露のある時刻、あるいは雨天時の収穫は葉折れしやすく、腐敗や泥つきによる品質低下を招くので避ける。

##### (3) 追肥

収穫後、畝間に追肥を行う。さらに、9 月下旬にシルバ - ポリマルチの穴の中へ追肥を行う。

##### (4) 花蕾のつみとり

開花・結実には根株を疲労させるため、8 月下旬から 9 月中旬にかけての開花前に花茎を切り取る。全株一斉にとう立ちすることが少ないため、1 回刈り取った後、7 ~ 10 日後にもう 1 度刈り取る。

#### 2) 夏刈り（7 月上旬から 8 月下旬）及び秋刈り（9 月上旬から 10 月下旬）

##### (1) 追肥

4 月上旬にシルバ - ポリマルチ被覆前に化成肥料を追肥する。収穫の 25 日前程度に地上部 3 ~ 4 cm 残して捨て刈りし、その後伸長してきたものを収穫する。

##### (2) 第 1 回刈り取り

ニラの大きさが 24cm 前後になり、本葉 3 ~ 4 枚の時、軟白部を 1.5cm くらいつけて刈り取る。

##### (3) 第 2 回目以降の刈り取り

第 1 回刈り取り後、夏刈りは 10 ~ 12 日間隔、秋刈りは 10 ~ 15 日間隔を目安に 収穫を行い、4 ~ 5 回収穫して打ち切り、株を休める。

##### (4) 花蕾のつみとり

春刈りと同じ要領で行う。

##### (5) 追肥

夏刈りは 9 月下旬、秋刈りは 11 月上旬の収穫後、シルバ - ポリマルチの穴の中に化成肥料を施す。なお、3 年目以降は 2 年目と同じ管理を繰り返す。

## 2 調製

出荷規格は、「富山県青果物標準出荷規格」に準じて出荷する。鮮度が重要であるので、涼しい場所での出荷調製を行う。

### 販売のポイント

地場産のメリットを生かし、夏場を中心とした継続的な出荷や鮮度をアピールした販売を行うことがポイントである。